第 7 回 11/9 「デジタル時代の音楽プロデュース 今音楽家が直面している課題について」

椎名 和夫（しいな・かずお）先生

音楽プロデューサー
一般社団法人演奏家権利処理合同機構 MPN 理事長

【活動履歴】
1952 年東京生まれ。ムーン･ライダースの結成に参加。
脱退後は、スタジオ･ミュージシャン、編曲、
プロデュース等の活動に転じ、井上陽水、山下達郎、
吉田美奈子、甲斐よしひろ、中森明菜、光 GENJI、
中島みゆき他多数のアーティストのレコーディング、
ステージでの演奏や、編曲、プロデュースを担当。
1986 年駒沢にスタジオ･ペニンシュラを設立。
同年 12 月、中森明菜「Desire」で第 28 回日本レコード大賞受賞。
1995 年演奏家団体パブリックインサード会（PIT）設立。
1998 年演奏家権利処理合同機構 ミュージック ピープルズ
ネスト（MPN）設立。
【現職】 パブリックインサード会代表幹事、（一社）演奏家権利処理合同機構 MPN 理事長、
（社）映像コンテンツ権利処理機構理事、（公社）日本芸能実演家団体協議会常務理事･
同実演家著作隣接権センター運営委員、総務省情報通信審議会専門委員、
肖像パブリシティ権擁護監視機構理事、デジタル時代の著作権協議会「著作権ビジネス研究会」主査、
放送コンテンツ権利処理円滑化連絡会委員、文化庁文化審議会著作権分科会臨時委員、他。

《講義概要》

本講座の寄附団体の一つである公益社団法人日本芸能実演家団体協議会・実演家著作隣接権センターの運営委員であり、自らがミュージシャンとしても活躍している椎名和夫氏が、デジタル時代の音楽プロデュースと今音楽家が直面している課題について講義を行った。

講義では、ギタープレイやアレンジ、プロデュースの仕事内容について自身の活動を例に紹介した後、デジタル技術の発達による生演奏から打込み音楽への変化について、実際に音楽を流して聴き比べながら解説し、それぞれの魅力を伝えた。また、音楽制作のコスト構造や音楽産業に関わる企業と職種、そしてクリエーターへの対価の還元サイクルについて説明し、音楽制作の「創造のサイクル」を維持することの重要性を示した。さらに、音楽産業の抱える問題についても詳しく説明し、産業構造の弱体化を防ぐために違法ファイルの撲滅と私的録音録画補償金制度の適正化が緊急課題であることを訴えた。

最後には、コンテンツとハード産業の弱体化について指摘し、メーカーと権利者が協力して日本の技術やコンテンツの海外展開に力を入れていくことが求められていることを示した。権利者とユーザーとメーカーが満足する構造をつくり、健全なクリエーションのサイクルを維持するためには今後どうすればよいのか、重要な課題について真剣に考える機会となった。

《受講生の感想》

●今やパソコンが普及したことによってクリック一つで音楽が手に入るようになり、比較的安い値段でたくさんの音楽を聞けるようになった反面、一つ一つの音楽を大事にしなくなってしまう人が増えたのではないかと思っています。技術革新によりコンテンツ産業が発展し、様々な音楽が身近になった今だからこそ、1人１人が１つの音楽に対する価値を見出し、ルールを守って、これからの音楽産業をもっともっと盛り上げていくべきだと感じました。

立命館大学・産業社会学部・3回生

●今まで他の機会でも音楽の違法ダウンロードの問題について触れることがあったが、今回はより詳しく知ることができたように思う。音楽機器はどんどん進化しており、ネットも広く流通している。そんな中で音楽をより楽しむためには、やはり最低限のことを守らなければならないし、周りでも違法ダウンロードを行っている友人などがいたら止められるようになりたいと思う。　立命館大学・産業社会学部・2回生

●日本の音楽産業のお金の流通の悪化によって音楽作成にかける予算がなくなってきているという事実は、日本の音楽の進化やクオリティの向上を妨げてしまう恐れがあるし、音楽の可能性も狭めてしまっていると思うので、何らかの対処を見つけ出さなければいけないと思った。　立命館大学・産業社会学部・4回生

●音楽を毎日聴くほど音楽が好きなので、アーティストに資金がしっかりと還元されるように補償金制度を刷新して、音楽市場を活性化してほしいと思う。私個人の考えではあるが、パッケージも含めて作品であると思うので、ダウンロードではなく、ＣＤを購入しているが一般的にユーザーは安いほうがいいので、ダウンロードなどを使ってしまうと思う。ＣＤの良さをアピールしていく必要があるのではないかと思う。

立命館大学・映像学部・3回生

●音楽を作る側の方たちがたくさんの時間と知識を費やして制作していることを考えると私たち視聴者側がその音楽を評価していく上でお金を払うという、例えると路上ライブなどの原始的なものへとなっていくべきであると考える。音楽はこれからも愛され続けていくものであるので、私たちが著作権など守る必要があると思う。　立命館大学・産業社会学部・2回生

●音楽は皆に親しまれている文化であるが、機器が発達するにつれて抱える問題も大きくなっていると感じた。中でも権利の問題はよく耳にするが、今現在それらの対立は日本にとって不利でしかなく、むしろ協力し一つとなって日本の技術やコンテンツを世界に発信していくことが大切だという意見があることを学ぶことができた。　立命館大学・産業社会学部・2回生